

片田・野田のため池群

(かただのだのためいけぐん)



全景



梅が咲き誇るため池の畔

ため池の概要

□ため池の所在地

三重県津市

□ため池の特徴

岩田川上流部の里山に点在する約30ヶ所のため池群で、多くが江戸時代に築造されたものですが、現在でも150haを超える農地の用水源として利用されています。

農村8集落と住宅3団地からなる片田地区では、近年、農業従事者の高齢化や減少により、ため池の維持管理が難しくなっています。

そこで非農家も参加して「地域ぐるみ」で維持管理することを目的として、地元自治会、地元小学校、県農水商工部、市農林水産部、水土里ネットみえで構成された協議会が設立されました。

地域と行政が協働して、ため池点検パトロールに住民が参加し、決壊を誘発する流木を撤去する活動や、片田地区歩こう会の地区行事を活用したため池の保全啓発活動などが行われています。

また、トンボ類などの水生生物も24種が確認されており、オオタカ等の希少種をはじめとした数多くの動植物も確認されています。

一方、ブルーギルやミシシippアカミミガメなどの外来種の存在が明らかとなり、改修工事に併せて「池干し」を行い外来魚の駆除が行われました。その結果、減少していた小魚が増加し、しばらく姿を消していたカイツブリが戻ってきています。

関連情報

紀伊・環境保全 & 持続性研究所ホームページ

<http://www.zc.ztv.ne.jp/kiikankyo/newpage1%20TameikeTsuAkalke.html>

員弁大池

(いなべおおいけ)



全景



池を見下ろすシンボルタワー

ため池の概要

□ため池の所在地

三重県いなべ市

□ため池の特徴

員弁大池は、かんばつ対策として昭和9年に造られたため池で、溪流から導水して55万トンを貯留し、現在も210haの水田を潤しています。

近年、老朽化対策工事と併せて、池周囲を含め「いなべ公園」として整備され、池を見下ろす五重の塔は市のシンボルタワーとなっています。

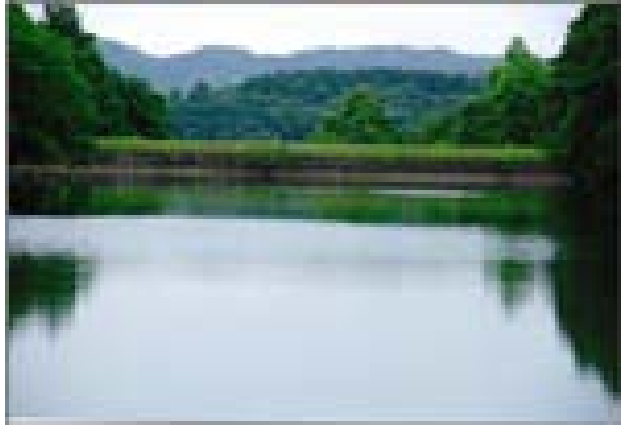
大池は、周囲をアカマツ天然林に囲まれた風光明媚な県の自然環境保全地域にあり、3つの遊歩道橋とも調和し、素晴らしい景観を呈しています。

また、市庁舎の近くにあり、山の頂上には市内を一望できる展望台があり、年間を通じて散策や遠足の場として地域住民の憩いの場となっています。

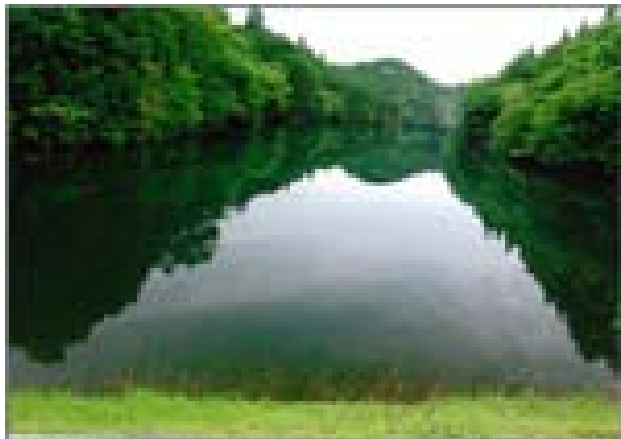
関連情報

小寺池

(こでらいけ)



全景



ため池の水面に映る針葉樹

ため池の概要

□ため池の所在地

三重県多気郡多気町

□ため池の特徴

小寺池は、丹生地区で約6.6haの新田開発を行うため、1781年に築造されたため池で、農業用水のほか防火用水としても利用されています。

奥行き長い小寺池の両側は針葉樹が植樹され、晴れた日には池に映る、美しい景色を見ることができ、また、冬季にはカモなどの渡り鳥が飛来します。

天明6年に建立された「弁財天神」の碑文によれば、西村和廉という丹生村役人が築造に大きく関わり、かんがい用水に恵まれない丹生村では新池の築造が必要として、安永3年(1774年)以来紀州藩に嘆願書を繰り返し提出して、天明元年(1781年)によりやく藩の許可を得て、人夫3,024人を労して竣工したとされています。

堤体は、築造から200年を経ているものの、石張りで保護されており美しさがあります。

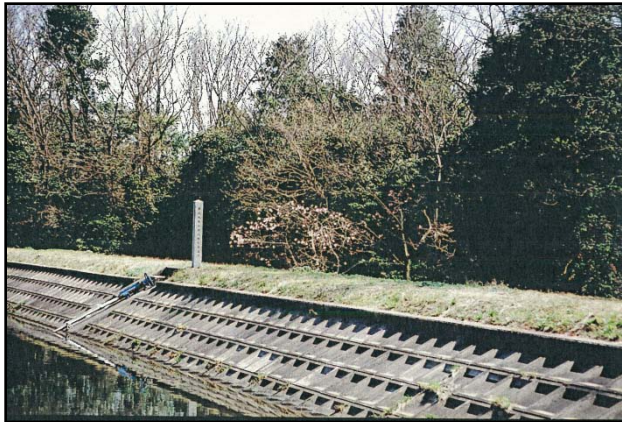
関連情報

楠根ため

(くすねため)



全景



堤体の様子



池の畔に咲くシデコブシ

ため池の概要

□ため池の所在地

三重県三重郡菟野町

□ため池の特徴

楠根ためは、明治時代に湧き水を利用して築造されたため池で、現在も3haの水田を潤しています。

周辺一帯は、シデコブシの生育する地域(里)として名を馳せ、「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」として、国の天然記念物にも指定されています。

シデコブシは、日当たりの良い湿地性の丘陵地などに特異的に分布するモクレン科の落葉性の小高木で、500万年前からの原初的形態で伊勢湾周辺のごく一部の地域にのみ生育します。薄桃色の花を咲かせますが、当地では特に赤色の花が他に類を見ないものとなっています。

シデコブシとため池がマッチングした山里の雰囲気は幻想的で、独特の雰囲気を醸しだし、神々しさも感じさせています。

また、シラタマホシクサなど東海地方特有の植物をはじめ、ミズギクなどの氷期遺存種的な植物やカザグルマ、トキソウ、モウセンゴケ類などの湿地性の希少植物が生育し、ムカシヤンマなども確認されています。

これらの希少な生態系の背景には、湧き水と周囲のしみ出し水を集めて群落全体に適度に水を供給し、自然環境のバランスを保つという大きな役割を果たしている楠根ための存在があります。

町では、生物多様性の観点からため池を「日本の自然環境保全の発信池」として位置付け、「田光の資源と環境を守る会」が先頭に立ち、地域が一丸となって維持管理を行っています。

関連情報

五桂池

(ごかつらいけ)



全景



山林に囲まれたため池

ため池の概要

□ため池の所在地

三重県多気郡多気町

□ため池の特徴

五桂池は、1660年頃に築造された県下最大級の貯水量を持つため池で、水不足に悩んでいた多気町の農業振興に多大な貢献をし、現在も水田180haを潤しています。

この地域では、築造当時、立ち退きを命じられた住民の子孫との交流が今も続いており、夏に行われる「かんこ踊り」などのイベントにも多数の住民が集まります。

春は桜、秋は紅葉など四季折々の草花が美しく、カモなどの渡り鳥も飛来してきています。

昭和59年に五桂池を中心として「ふるさと村」が開村し、年間35万人の観光客が訪れています。農産物の直売所「おばあちゃんの店」、最近話題になっている高校生レストラン「まごの店」などが、地域活性化の一翼を担っています。

関連情報

多気町五桂池ふるさと村ホームページ

<http://www.furusatomura.taki.mie.jp/index.html>